

【著作紹介】 公明党 一創価学会と50年の軌跡



著者：薬師寺 克行（社会学部メディアコミュニケーション学科 教授）

出版社：中央公論新社

出版年：2016年4月発行

価格：840円＋税

ISBN：9784121023704

[所蔵状況を確認する](#)

<http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102157669>

内容：

戦後55年体制の一翼を担っていた日本社会党。しかしその誕生から、成田三原則、構造改革派論争、社会主義協会派騒動、そして新党問題など抗争を常に内部にはらんでいた。その最後の瞬間に元首相が見たものは。野党再編、リベラリズムをめぐる考えの違い、そして排除の論理……。すべては、既に、ここに、あった！

教員メッセージ

自民党と連立を組んで長く政権を担当している公明党ですが、その実像はあまり知られていません。その理由は公明党の最大の支持母体が「創価学会」という宗教団体だからでしょう。特定の宗教を信じる人たちが支持する政党であるというイメージが強いため、多くの国民が何となく近寄りがたいと思っているようです。しかし、公明党は政権を担う政党であり、内政・外交に関連する重要な政策を決める立場にあります。従って国民は公明党がどのような政党なのか知っておくべきです。

本書は創価学会が戦後まもなく、なぜ独自に政党を作ろうと考えたのかというところからスタートしています。地方議会議員に始まり、参院議員、さらに衆院議員と議席を獲得し国政の舞台を獲得しました。しかし、その時の公明党は与党ではなく野党です。1970年代を中心に公害問題など国内の様々な課題を地道に調査し、自民党政権を厳しく追及していました。野党としての公明党は地に足の着いた活動をしていた政党でした。本書は野党時代の公明党の変遷を詳しく紹介しています。

そして、1990年代に入り自民党が弱体化すると政界は流動化し、政権交代が繰り返されました。その過程で自民党は政権を安定させるため1999年に公明党と連立を組みました。以後、一時期を除き「自公連立政権」が続いています。「自公連立」の特徴は、政権運営だけではなく選挙協力を含む幅広い関係を作り上げ、長期間継続していることです。こうした連立政権は世界的には極めて珍しいです。なぜそうした連立政権が可能だったのか。本書では「自公連立政権」の特徴などについても詳細に記述し、分析しています。みなさんが今の政治を理解するうえで参考になるとと思います。

[著者] 薬師寺 克行 (ヤクシジ カツユキ)



1979年東京大学文学部卒業、朝日新聞社に入社。

政治部で首相官邸や外務省などを担当し、1997年に政治部次長、2001年から2005年まで論説委員。

この間、2002年に米国のシンクタンク、スティムソン・センター客員研究員（兼務）に派遣される。

2005年に朝日新聞社のオピニオン誌、月刊「論座」編集長、2009年に政治部長、2010年に編集委員。

2011年に朝日新聞を退社し、東洋大学社会学部教授。専門は現代日本政治、日本外交。

関連リンク

[東洋大学研究者情報データベース（薬師寺克行教授）](http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.dcdefd4801481ce59338c3e218b71886.html)

<http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.dcdefd4801481ce59338c3e218b71886.html>

[薬師寺克行教授（メディアコミュニケーション学科）が、毎日新聞「特集ワイド」にてコメント](https://www.toyo.ac.jp/site/dmdc/72796.html)

<https://www.toyo.ac.jp/site/dmdc/72796.html>

[薬師寺克行教授（メディアコミュニケーション学科）がNHK ラジオ第1番組「マイあさラジオ」の「社会の見方・私の視点を」のコーナーに出演しました。](https://www.toyo.ac.jp/site/dmdc/342663.html)

<https://www.toyo.ac.jp/site/dmdc/342663.html>